

東大能力研究会 作文

のりくんに会いたい

八月二十六日は、のりくんのおたん生日です。生きていたら五才になります。でものりくんは、きょ年の二月二十八日に神様のところに行ってしまうました。家でもさんそのきかいをおいてチューブでおはなにながしていました。お外に出るときも小さなさんそポンベをもって行ってました。

のりくんがびょういんに行くときは、たいへんでした。お母さんがのりくんをだっこして、おとうとのゆうすけがおかあさんのにもつをもって行きました。ポンベがおもいからさかがあるとたおれそうになってわたしは、いっしょうけんめいにポンベをおしていきました。びょういんでまってる人たちが「おてつだいができてえらいね。」と言ってくれました。

市みん病院の小児かは、いつもまってる子がたくさんいて、お家にかえるのがいつもおそくなりました。でも病院に行くのはとても楽しかった。先生もかんごふさんもやさしかったし、のりくんもいっしょにみんなでお出かけすることがあまりなかったから、お母さんにもここにこした。

病院に行くといろいろな子がいました。大きくても歩けなくて車いすの子やのりくんみたいに、さんそのチューブをしている子もいました。わたしは、とてもかわいそうだと思います。

でものりくんも東京まで行ったことがあります。お父さんがうんでんしてお母さんがだっこして、わたしとゆうすけと五人で行きました。さんそポンベもたくさんつんで行きました。東京のおじちゃんの家にもわたしの家においてある同じさんそのきかいがよういしてありました。だから東京に四日いてもぜんぜんこまらなかつた。とちゅうでふじサファリパークによつたけど、のりくんは、ねてばかりいた。どうぶつえんに行ったことがないから見せてあげたかつたのに。東京のおじちゃんもおばちゃんもいとこのなおちゃんもじゅんちゃんものりくんをかわいがってくれた。

のりくんもいっしょにみんなであつたしゃんが、今でもおじちゃんの家にかざってあります。

のりくんが入院したとき、わたしはいつもさびしかった。だつてのりくんがいないし、お母さんもいつもついて行ってしまうから。でもそういう時には、東京のたかこおばあちゃんかあしやのおばあちゃんかならず来てくれました。

病院におとうさんがとまることもありました。しごとがおわってから夜おそくなってお母さんとかわるから、わたしとゆうすけは、おばあちゃんと食じをしておふろにはいつてさきにねていました。

朝早くに、お母さんがお父さんとかわるから、わたしがおきたときには、もうお母さんは、病院に行っていました。

のりくんがたいいんして家にかえってくるとわたしはとてもうれしかった。お母さんは、家にいてくれるし、のりくんのおせわもわたしがしてあげれるから。スプーンでごはんをたべさせてあげたり、おむつをかえてあげたりしました。

のりくんはほんとうにかわいかった。しゃべれなかつたけどわたしがごはんをもって行くと「きゃー」といつてよるこんでた。

のりくんがしんだときわたしは、とてもかなしかった。

のりくんは、クリスマスにたかこおばあちゃんがかつてくれた白いようふくをきて白いぼうしをかぶつて、てんしみたいなかおをしていました。お父さんもお母さんもおばあちゃんもわたしもみんな、なきました。ゆうすけは、「のりくんいつ目をあけるの」といつてました。

のりくんが生まれてお父さんは、お母さんに、とてもやさしくなつたし、みんなでいっしょうけんめいかわいがつてきました。

のりくんはあるけなかつたけど、天国ではくつをひつぎに入れてあげました。

のりくんにもう一ど会いたい。

だっこしてケーキをたべさせてあげたい。

みんなでおたん生日のおいわいをしてあげたい。

のりくんに会いたい

八月二十六日は、のりくんのおたん生日です。生きていたら五才になります。

でものりくんは、きょ年の二月二十八日に神様のところに行ってしまうました。

生まれたときから心ぞうと肺が悪くてよく入院していました。家でもさんそのきかいをおいてチューブでおはなにながしていました。お外に出るときも小さなさんそポンベをもって行ってました。

のりくんがびょういんに行くときは、たいへんでした。

お母さんがのりくんをだっこしてわたしがポンベをはこんで、おとうとのゆうすけがおかあさんのにもつをもって行きました。

ポンベがおもいからさかがあるとたおれそうになってわたしは、いっしょうけんめいにポンベをおしていきました。びょういんでまってる人たちが「おてつだいができてえらいね。」と言ってくれました。

市みん病院の小児かは、いつもまってる子がたくさんいて、お家にかえるのがいつもおそくなりました。

でも病院に行くのはとても楽しかった。先生もかんごふさんもやさしかったし、のりくんもいっしょにみんなでお出かけすることがあまりなかったから、お母さんにもここにこした。

病院に行くといろいろな子がいました。大きくても歩けなくて車いすの子やのりくんみたいに、さんそのチューブをしている子もいました。わたしは、とてもかわいそうだと思います。

でものりくんも東京まで行ったことがあります。

お父さんがうんでんしてお母さんがだっこして、わたしとゆうすけと五人で行きました。さんそポンベもたくさんつんで行きました。

東京のおじちゃんの家にもわたしの家においてある同じさんそのきかいがよういしてありました。だから東京に四日いてもぜんぜんこまらなかつた。

とちゅうでふじサファリパークによつたけど、のりくんは、ねてばかりいた。どうぶつえんに行ったことがないから見せてあげたかつたのに。

東京のおじちゃんもおばちゃんもいとこのなおちゃんもじゅんちゃんものりくんをかわいがってくれた。

のりくんもいっしょにみんなであつたしゃんが、今でもおじちゃんの家にかざってあります。

のりくんが入院したとき、わたしはいつもさびしかった。だつてのりくんがいないし、お母さんもいつもついて行ってしまうから。

でもそういう時には、東京のたかこおばあちゃんかあしやのおばあちゃんかならず来てくれました。

病院におとうさんがとまることもありました。しごとがおわってから夜おそくなってお母さんとかわるから、わたしとゆうすけは、おばあちゃんと食じをしておふろにはいつてさきにねていました。

朝早くに、お母さんがお父さんとかわるから、わたしがおきたときには、もうお母さんは、病院に行っていました。

のりくんがたいいんして家にかえってくるとわたしはとてもうれしかった。お母さんは、家にいてくれるし、のりくんのおせわもわたしがしてあげれるから。

スプーンでごはんをたべさせてあげたり、おむつをかえてあげたりしました。

のりくんはほんとうにかわいかった。しゃべれなかつたけどわたしがごはんをもって行くと「きゃー」といつてよるこんでた。

のりくんがしんだときわたしは、とてもかなしかった。

のりくんは、クリスマスにたかこおばあちゃんがかつてくれた白いようふくをきて白いぼうしをかぶつて、てんしみたいなかおをしていました。

お父さんもお母さんもおばあちゃんもわたしもみんな、なきました。ゆうすけは、「のりくんいつ目をあけるの」といつてました。

のりくんが生まれてお父さんは、お母さんに、とてもやさしくなつたし、みんなでいっしょうけんめいかわいがつてきました。

のりくんはあるけなかつたけど、天国ではくつをひつぎに入れてあげました。

のりくんにもう一ど会いたい。

だっこしてケーキをたべさせてあげたい。

みんなでおたん生日のおいわいをしてあげたい。